

# 一心太助の天秤棒 ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで売り歩く～

越谷市議員 白川 ひでつぐ

シリーズ/NO 137号



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

## 駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期21年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ちは、通算4200日を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTubeの白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は263名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録



## 死ねと叫び、うるさいと抗議する若者

昨日の朝の駅立ちは、新越谷駅東口で通常通り、午前6時前から開始して、市政レポートの配布や6月3日から始まる6月定例市議会の提案予定の市長提出議案の事前説明でマイクを握った。

今回も、チーム白川の会員である吉田理子さんも行動を共にして頂いた。

当日は週明けの月曜日ということもあり、元々普段激しく乗降客が行きかう東武鉄道の新越谷駅とJRの南越谷駅との通行広場は一段と市民が急ぎ足で通過して行く。

午前8時前に一団の通勤客の波に交じって男性の若者が一切私をみずに顔を上向きにして、大きな声で「死ね」と叫んで南越谷駅に歩いて行かれた。私との距離は10メートルあまり。

えー何？と思う間もなく通り過ぎて行くの

だが、一体なんだったのだろうか。

今朝の駅立ちは、越谷駅西口で実施したのだが、活動を共にするチーム白川の吉田理子さんにも、同じような若い男性が15分余り話し込みが続いた。

私の立ち位置からは、30メートル近く離れており、二人がどんな会話をしているかは分からない。午前8時30分過ぎに活動を終了して街宣用具の後片付けをしながら、会話の内容を吉田さんに聞いてみた。

夜勤明けで休みたいのに、マイクの声がうるさい、迷惑しているから街宣を中止しろ、ほかの駅でやれとの抗議だった、とのこと。

これに対して、吉田さんがあなたにとっては迷惑なのかもしれないでしょうが、すでに20年間も市内6駅全部で毎日、毎朝活動をしていて、聞いていただく市民も大勢おられます、と。

すると時々駅立ちでお話している馴染みの中年男性がそばで二人の話をじっと聞いておられて、俺は白川さんの話を何時も聞いているよ、と反論して頂いた、と。

そのため本人があそこにいるので、直接お話されたらどうでしょう、と促したがそそくさと立ち去って行かれた、との経緯を聞いた。

この二人の若い男性に共通するのは、私には直接文句も抗議もしないが、格下？とみる女性や年下の市民にはあれこれ自己中の話をぶつけて来て、決して相手の言い分や自分の主張の間違いは認めようとはしない。

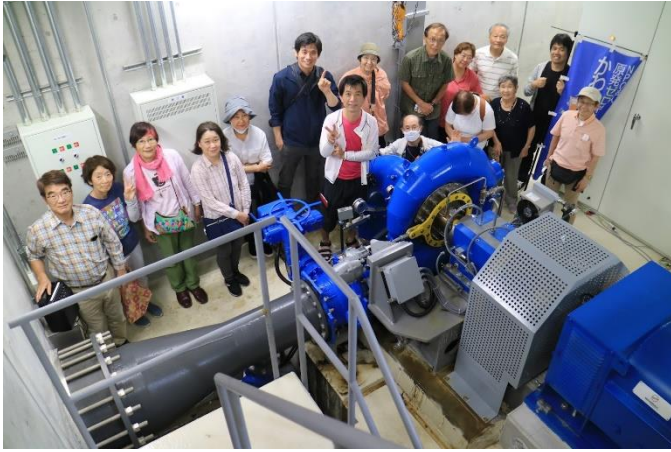
これが更に行き過ぎると、最近大きな社会問題となっている「カスハラ」なのだろう。

駅前で接する市民の皆さんは決して私に好意的な反応ではなく、むしろ朝の通勤時に何十年も活動しているので、気に障っているが、抗議する勇気もなく朝から不愉快に感じて通り過ぎていく方も少なからずおられるだろう。

実質賃金が30数年間も下がり続け、物価の高騰や重税感で貧困と格差が広がり続けている中で、捧ぐれた気持ちさえ共有できないほど人間関係がずたずたになっている状況下で垣間見える市民の働哭を感じる。私でよければ思いっきりあなたの不平や不満をまずぶつけてみて下さい、お聞きしますよと、こんな時何時も向き合おうとするのだが。

この日の夕方、第38回駅前市民対話集會を越谷駅東口で開催したが、半年ぶりでお会いした市民から激励の言葉と4000円ものカンパを頂いた。そんな市民に支えられている、とも実感するシーンもある。(5月30日・木曜日)

## 長野県の小水力発電と満蒙開拓平和 記念館で学ぶ



NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所が主催する、「エネルギー自治で地域再生！おひさま革命！」飯田モデルに学ぶ の研修会に 6 月 1 日、2 日の両日参加した

初日は午前 7 時に川崎市の武蔵新城駅に集合のため、せんげん台駅を午前 5 時 6 分発の電車で向かった。神奈川県内をはじめ遠くは香川県から参加した総勢 16 人の市民と行動を共にした。

レンタカーに乗り込み、長野県飯田市の野辺山森林公園「モーリーの森交流館」に到着したのは午後 12 時近く昼食の後午後から、おひさま進歩エネルギー株式会社の社長の菅沼利和氏から「地球温暖化を防止する自然エネルギー事業による地域づくり」についてお話を聞いた。

飯田市の再生可能エネルギーによる町おこしは以前越谷市議会の行政調査の講義で、太陽光を活用した事業についてはお聞きしていたが、今回は特に小水力発電事業を中心に話して頂いた。2005 年に日本初の大規模な太陽光発電の市民出資「南信州おひさまファンド」で市内の保育園等 38 施設に太陽光パネルを設置した実績が紹介された。

更に 2023 年には野辺川小水力発電で、小水力発電の第一号を竣工させた、一般家庭 700 世帯分の発電量を供給している。

この話ののち、現地の野辺川小水力発電所の河川や発電機施設の見学と説明をして頂いた。

普段は関係者立ち入り禁止地区や機械設備での説明を受けたが、河川の高低差が僅か 3 m でも小水力発電が可能との話には驚かされた。

次の日は、同県阿智村に開設されている満蒙開拓平和祈念館を訪れ館内に設置してある戦前、戦中の日本人の農業者や学校や大陸の日本軍の様々な写真やスケッチや軍服等が展示さ

れており映像コーナーでは開拓団だった市民の証言フィルムが上映されていた。

館内はスギやヒノキなど現産の木材をふんだんに使用し、風の通り道で室内温度の調整がされており、至る所木の香りに包まれ穏やかな気分浸れた。

館内を一巡したのち、満州開拓団の両親のもと当時 5 歳だった女性から「今なぜ満蒙開拓団なのか？ 当時 5 才の女の子の目から」と題して体験談を話して頂いた。

この 80 歳を超える高齢女性は、最近語り部として話す様になったのだが、語り部の市民の中では新人だとのこと。何故今当時のつらく、苦しかった体験談を広く世間に話さなければならぬと、決意したのかとの参加した市民からの質問に対して「最近戦争に向かっていく家庭や学校や社会の雰囲気良く似てきた、皮膚感覚で感じているため」との答えが胸に突き刺さった。  
(6 月 2 日・日曜日)



## 6 月市議会、冒頭副議長選挙を実施

今朝の駅立ちは、夜来からの雨のため中止したが午前 10 時から 6 月越谷定例市議会の初日のため、私を含め全議員が本会場に参集した。

通常ならば冒頭市長から市長提出議案の提案と主旨説明が行われるのだが、今回は副議長が「都合により」辞任したため、副議長の選挙が直ちに実施された。

立候補者は、公明党の瀬賀恭子議員と市民ネットの山田裕子議員の両者となり、本会場で全議員による投票が行われ、瀬賀議員 19 票、山田議員 13 票で瀬賀議員が副議長に選出された。

しかし、一年前の正副議長選挙では、最低でも議長候補者の {議長公約} が披瀝されたので選択の材料とはなったものの、今回の副議長がどの様な姿勢で議会運営にあたるのかは不明のままだった。  
(6 月 3 日・月曜日)